



是永 宙 議員

発達支援の中核的な行政機関の将来像について

発達支援グループが発達支援の中核的な機関として移行する時期は？

平成32年度を目指しております。

答

問

発達に遅れや課題があった、集団での関係や、学習面や生活面でうまくいかず、「生きづらさ」を感じる子どもや、「育てづらさ」を感じ困っておられる保護者家族が増えています。発達に課題がある人を乳幼児期から成人期・高齢期まで切れ目なく支援を連携させ「発達支援の中核的な行政機関」の存在が重要です。

子ども園などで保育士が行動観察を通じて、支援が必要な児童の発見に努めている

が、行動観察にあたって着眼点や項目を共通化し、できるだけ客観的に判断できるようにチェックリストを作成すべきと考えるが、どうか。

答 子ども未来部長

すべての児童につきまして、発達の姿を評価する「児童票」を作成しておりますが、発達障害にかかります共通のチェックリスト的なものについて、一度勉強させていただきます。

問

新居浜市教育委員会の発達支援課が、個別支援計画を25歳になるまで保存し、活用しているが、いかが思われるか。

答 教育指導部長

情報の引き継ぎは、重要な点であると認識しております。新居浜市の事例につきましても、今後調査研究してまいりたいと考えております。

問

発達支援として目指している方向性ならびに発達支援の中核的な機関への移行スケジュールについては、どうか。

答 健康福祉部長

「発達支援を必要とするお子さんやご家族が、生涯に力を十分に発揮できる」ことを目標とし、学齢期まで重点的に取り組みますとともに、相談支援体制の充実、関係機関の支援と連携の推進、適正な情報提供を進めてまいります。

中核的な機関への移行スケジュールにつきましては、平成32年度を目標とし、第5期障がい福祉計画を策定する中で、更なる連携を図る体制づくりに努めてまいりたいと考えております。



子どもたちが自由な発想で遊べる「冒険遊び場」の取り組み

その他の質問

●原子力災害住民避難計画について